

事業名称	漁撈用具を活かした「海の地域回想法」活用事業		
実行委員会	氷見市地域回想法事業実行委員会		
中核館	氷見市立博物館		
	住所	〒935-0016 富山県氷見市本町4番9号	
	TEL	0766-74-8231	FAX 0766-30-7188
	ホームページ	http://www2.city.himi.toyama.jp/museum/	
構成団体	氷見市立博物館、氷見市老人クラブ連合会、氷見市立博物館友の会、和船建造技術を後世に伝える会、女良地区自治振興委員会、氷見市地域回想法活動ネットワーク連絡会（ほっこり回想クラブひみ）		
事業開始時点の課題分析	当館では、民具を活用する「地域回想法」を平成23年度から継続して進めてきた。現時点である程度の成果をみており、その成果の一端を公開するため平成27年度には特別展「思い出をつむぐ 暮らしを知る」を開催した。一方、これまで参加者は町部や農村部の女性を中心に、地域的な偏りも生じている。氷見の地域性を考えると、主要産業である漁業やその周辺産業も掘り上げる必要がある。とりわけ、機械化以前の漁業や造船業を知る漁師や船大工の高齢化が進む中で、かつての生業の経験知が失われようとしている。		
事業目的	博物館と福祉分野との連携をより一層進め、これまで蓄積してきた「地域回想法」のノウハウを活用して、廃絶が危惧される漁師や船大工など、古くから漁業および周辺産業に携わった高齢者の持つ経験知や漁業習俗などの記録保存を急ぎたい。また、この「地域回想法」を活かした取り組みは、地域の民具を収蔵する全国の多くの歴史博物館や郷土資料館等でも十分に対応が可能なものであり、漁撈用具を応用した「海の地域回想法」のノウハウを公開していく中で、とりわけ地域の公立博物館活性化に寄与できるのではないかと考えている。		
事業概要	歴史博物館と高齢者福祉の連携、および新たな文化財の活用手法の開発を目指し、以下の事業を行った。1、漁撈用具を活かした「海の地域回想法」の継続的実施。国登録有形民俗文化財「氷見及び周辺地域の漁撈用具」や関連資料を活用し、漁家の暮らしをテーマとする回想法を継続実践し、氷見の漁村文化の記憶を掘り起こした。2、地域回想法関連資料（木造和船ドブネ）製作工程の記録保存と公開。これまでに記録した映像・写真を冊子・DVDとして刊行・頒布した。3、木造和船ドブネを核とした「海の地域回想法」公開事業。復元製作した、氷見の漁業のシンボルである定置網漁の網取り船ドブネを、市民に広く公開した。元漁師や船大工など、地域の高齢者との対話を通じ、ドブネとかつての漁業とのかかわりを次世代に継承した。		
実施項目 ・ 実施体系	<p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <p><input type="checkbox"/>ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携</p> <p><input type="checkbox"/>イ ユニークベニユーの促進</p> <p><input type="checkbox"/>ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館</p> <p><input type="checkbox"/>エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信</p> <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動</p> <p><input type="checkbox"/>ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成</p> <p><input type="checkbox"/>イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発</p> <p><input type="checkbox"/>ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施</p> <p><input type="checkbox"/>エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業</p> <p>(3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館</p> <p>■ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動</p> <p>■イ 文化財の新たな保存管理・活用の手法の開発</p>		

<p>実施後の 成果・効果等</p>	<p>「海の地域回想法」では、氷見市立博物館や氷見市文化財センターの漁撈用具を用いて、「漁師の回想法」、「漁家の回想法」を実施した。これらの成果については、氷見市立博物館と日本民具学会の共催で開催した日本民具学会第43回大会公開シンポジウム「民具の活用と地域回想法」の中でも発表を行い、全国の民具研究者に広く周知することができた。地域回想法関連資料として復元製作したドブネについては、その製作過程を報告書として刊行し、記録映像をDVDにまとめた。木造和船ドブネを核とした「海の地域回想法」公開事業では、かつてドブネに乗った経験のある元漁師を対象とした「ドブネを語る会」をはじめ、地域回想法を実践した。その中で、氷見の漁業のシンボルであるにもかかわらず、すでに実物資料が失われたドブネの実際の構造や使用方法、漁撈との関わりといった、かつての造船技術や漁撈習俗の継承のための多くの知見を集積、蓄積できた。また、「海の回想法」実践の副産物として、昭和20年代以降の漁業風景を撮影した写真資料なども収集できた。こうした資料も、今後実施する「海の回想法」の新たなツールとして活用していきたい。「地域回想法」の実施においては、介護施設からの訪問者受け入れや、民具セットの貸出を継続し、福祉分野との連携をより一層深めることができた。民具セットの貸出は、市外の施設からの依頼も多く、回想法のノウハウの提供といった面も含めて、さらに地域的な広がりをみた。</p>
------------------------	--

【事業実績】

氷見市立博物館において、漁撈用具を活かした「海の地域回想法」活用事業を実施した。

【1】漁撈用具を活かした「海の地域回想法」活用事業

1. 漁撈用具を活かした「海の地域回想法」の実施

「海の地域回想法」では、氷見市立博物館や、同館の収蔵展示施設氷見市文化財センターで漁撈用具を題材に、「地域回想法」を実施した。農具や生活用具など、農村や町部の高齢者に馴染み深い資料だけではなく、漁村や漁家の生活を知る高齢者にとってはかつて身近な存在だった漁撈用具を間近に見てもらうことで、思い出語りに花が咲いた。特に漁師経験のある高齢者にとっては、そのモノの持つ特性を活かした「地域回想法」を実践することができたと考えている。



氷見市文化財センターでの「海の回想法」

また、こうした「海の地域回想法」については、氷見市立博物館と日本民具学会の共催で開催した日本民具学会第43回大会公開シンポジウム「民具の活用と地域回想法」の中で、当委員会の廣瀬直樹が「海の地域回想法 ―地域に根ざした回想法の試み―」と題して事例報告を行い、パネルディスカッションを通して全国の民具関係者に広く周知することができた。

2. 地域回想法関連資料(木造和船ドブネ)製作工程の記録保存と公開

地域回想法関連資料(木造和船ドブネ)の製作工程について、事業報告書とDVDを一般公開した。成果品は、市内外の博物館・資料館・図書館等へ配布したほか、地域回想法の現場および、博物館活動や学校教育現場での活用を通じて、公開・普及に努めた。

- ・事業報告書 「ドブネをつくる 漁撈用具を活かした「海の地域回想法」プログラム事業報告書」
- ・DVD 「ドブネをつくる 復元、オモキ造りの造船技術」 各 1000 部作製

3. 木造和船ドブネを核とした「海の地域回想法」公開事業

復元製作した木造和船ドブネを核とした「海の地域回想法」公開事業では、氷見市文化財センターで広く一般に公開を行った。加えて、かつてドブネに乗った経験のある元漁師を対象とする「海の地域回想法」として、船大工と漁師を中心とする「ドブネを語る会」を開催した。参加者のうち、実際にドブネに乗った経験を持つ元漁師の皆さんは、ドブネを見たとなにかつての漁師生活を思い出し、身振りを交えて漁の様子を語り出すなど、ドブネは「海の地域回想法」のツールとして有効なもの、と実感することができた。そうした中で、氷見の漁業のシンボルであるにもかかわらず、

すでに実物資料が失われたドブネの実際の構造や使用方法、漁撈との関わりといった、かつての造船技術や漁撈習俗の継承のための多くの知見を蓄積できた。

また、「海の回想法」実践の副産物として、昭和 20 年代以降の漁業風景を撮影した写真資料なども収集することができた。こうした資料も、今後実施する「海の回想法」のツールとして活用していけるものと期待している。



ドブネの一般公開



ドブネの一般公開



「ドブネを語る会」の実施



「ドブネを語る会」の実施

4. 介護施設との連携による「地域回想法」の実施

介護施設と連携した「地域回想法」の実施では、介護施設からの訪問者受け入れや、民具セットの貸出を継続して行い、福祉分野との連携をより一層深めることができた。民具セットの貸出は、氷見市内だけでなく、射水市や高岡市など氷見市外の施設からの依頼も多く、地域回想法のノウハウの提供といった面も含めて、さらに効果を上げているものと考えている。なお、民具セット貸出や地域回想法の実施に関するアンケート結果は、別紙にまとめた。

(1) 参加者数

・参加者数延べ 1965 人 内訳 介護施設受入 53 人(6 件)、民具貸出 1210 人(21 件)、出張回想法 237 人(8 件)、木造船ドブネを核とした「海の地域回想法」公開事業 465 人(23 件)

(2) マスコミでの報道結果

北日本新聞 7 月 28 日朝刊、富山新聞 7 月 28 日朝刊、北陸中日新聞 7 月 29 日朝刊、朝日新聞 8 月 1 日朝刊、北日本新聞 12 月 19 日朝刊、北日本新聞 1 月 16 日朝刊

(3) 成果及び今後の課題

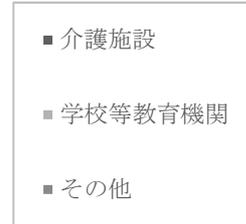
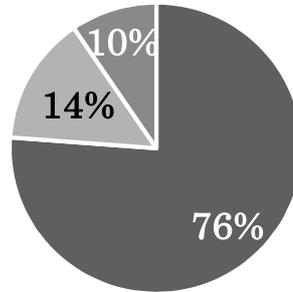
当委員会の取り組みの中で、漁業に特化して実施する「海の地域回想法」が効果的な取り組みであることが実感でき、地域の博物館として、取り組んでいくべき事業であるという思いを強くした。今後は、漁業だけではなく、地域のさまざまな生業や暮らしのあり様に応じた「地域回想法」として、本事業を応用していく必要があるもの、と考えている。

氷見市地域回想法アンケート集計

一貸出し民具の利用状況一

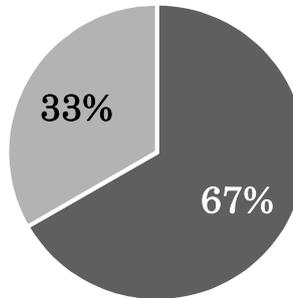
民具貸出し先 (1)

- ・介護施設 16件
- ・学校等教育機関 3件
- ・その他 2件



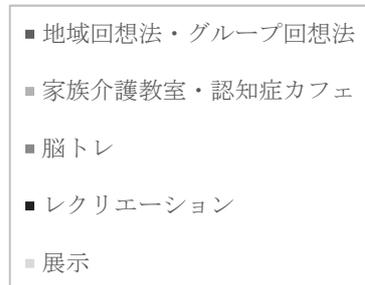
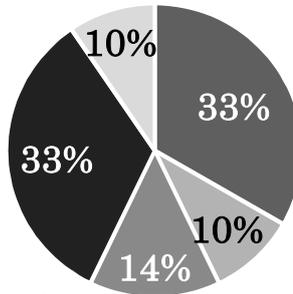
民具貸出し先 (2)

- ・市内 14件
- ・市外 7件



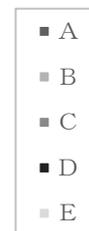
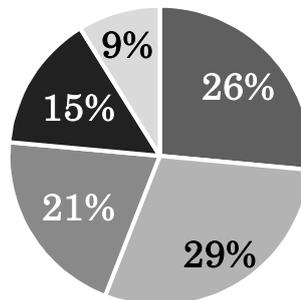
民具貸出し目的

- ・地域回想法・グループ回想法 7回
- ・家族介護教室・認知症カフェ 2回
- ・脳トレ教室 3回
- ・レクリエーション 7回
- ・展示 2回



種類別民具セットの貸出し (複数回答あり)

- ・A 9回
- ・B 10回
- ・C 7回
- ・D 5回
- ・E(遊び・嫁のれん) 3回



参加者・利用者人数

- 計 1,210名
- ・最大 170名
- ・最少 14名
- ・1回当たり 57名 (21回/名)

平成30年度 氷見市地域回想法アンケートより

※（ ）内は順に貸出先／貸出目的／貸出セット／所在地

参加者の様子

- ・表情明るく、思い出すように自然と喋っておられた。利用者様どうして会話も弾んでいた。
(施設／レク／C・D／市内)
- ・普通、無口で自分から発言が皆無だった人が、何かに取り付かれた様にしゃべり出した。
参加者の表情が、生き生きしていた。写真より実物を手に取ると、昔の記憶が早くよみがえるようだ。
(施設／レク／B・D／市外)
- ・手に取り、利用者同士で会話が弾んで、笑顔になっている。若い職員に、使い方や当時の事を話し、会話が弾んでいる。
(施設／回想法／B／市内)
- ・認知症の方が目を輝かせて、昔懐かしい話をして下さる。親子で参加され、「これで(ネンネコタンゼン)お前をおぶったものや。」と話しが弾んでいた。(施設／その他／A～E／市内)
- ・反応がととてもよく、おしめや藤箕などを手にして実演してくれた。
(教育／脳トレ／B／市内)
- ・昔をなつかしまれる方もおられれば、見たことがないのか、余り興味をしめさない方もおられました。
(施設／回想法／A／市外)

施設および担当者の感想

- ・普段、表情があまりない方が手に持って笑顔でおどろいた。(教育／脳トレ／B／市内)
- ・ほぼ毎日開催しましたが、毎回とてもよい表情がみられ、スタッフ一同とても嬉しかったです。
(施設／レク／B・C／市外)
- ・利用者さんより話が出て、当時の話題で会話が弾み、コミュニケーションツールとしていい機会となりました。今後も、継続できたらと思いました。(施設／回想法／B／市内)
- ・利用者が自ら発言することが多く、1時間では足りないくらいでした。あまり話をしない人も、回想法では、発言があったり、ぜひ次回も違う民具を使ってほしいと思いました。
(施設／レク／A／市外)
- ・余り見たことのない物だったのか、前回より盛り上がらなかったように思いました。回想法も、こちらからの言葉掛けも大事なので、利用者の言葉を引き出すのは難しいと感じました。
(施設／回想法／A／市外)
- ・普段、あまり声を聞かれない利用者の方からも、昔懐かしい話しが聞くことができて良かったと感じた。今後も、このように昔に触れる機会があれば良いと思う。
(施設／その他／A～E／市内)